山の上の生活（その3）

日本原子力研究所・理化学研究所
大型放射光施設計画推進共同チーム
加速器系グループ　　田中　均

7．秋祭り

新都市周辺の野山では、9月の終わり頃から彼岸花が一斉に咲き始める。ここへ移り住んでくる以前に、この花が野山に咲いている所を、都会育ちの私は見た記憶がない。聞くところによれば、関西から西の地方に多く分布している花のようだ。アマリリス属の草木で、6、7個の小さな花が寄せ集まって一つの花を形成している。近くで見るとグロテスクだが、遠目からは不思議とバランスの取れた立派な花に見える。彼岸花の最大の特徴は、形もさることながらその独特の色合い、他に類を見ないけばけばしい赤色にある。その花が集群し、黄金色の稲穂で覆われた田圃の畦に咲いている風景は、強烈で幻想的だ。もし、ゴッホがこれを目にしたならば、間違いなく絵にしていたであろう。新都市で生活する私にとって、彼岸花は、深まりゆく秋を告げる自然のメッセージであり、この季節を感じるために欠くことのできないものとなった。

この彼岸花が咲き終わる10月初めから、新都市周辺では秋祭りが始まる。祭りは、11月2、3日の相生（昔の呼び方で“おお”と読む）の祭りで幕を閉じるまでに、各地の神社を巡り、約1カ月間続く。この時期は、週末毎に各所で神社の名前の書かれた登り、提灯、法被を着た人々と御輿を目にすることになる。今年は南光町のひまわり祭り（山の上の生活（その2）本誌 Vol. 5 No.12 を参照のこと）を皮切りに、多くの祭りを見てまわった。全てが素朴で、温かく、そこで生活している人々の息吹が感じられるものである。その中でも、三日月町の高原祭りは、色々な意味で印象に残っている。

高原祭りは、毎年10月10日の体育の日に、葡萄畑の広がる三日月町の山間部で開かれる。SPring-8 は3町にまたがって建設されているが、三日月はその内の一つだ。特産物を主体とした模擬店、竹細工のクラフトコーナー、テクノポリスの紹介パネル等が広場に集められた、文字通り手作りのお祭りであった。会場周辺は風光明媚で、山の景色を見ながらの散策も楽しむことができる。三日月町は葡萄栽培が有名で、目玉はやはり葡萄の特売であった。行き交う多くの人が葡萄の箱を手にしているのを見て、私もベリーAとピオーネを購入し、東京の実家に郵送した。どちらも美味しいと評判が良かったので、来年もまた送ろうと思っている。

矢野天満神社の秋祭り

新都市周辺に咲く彼岸花

ここで、私は奇妙な音（直接祭りと関係はないのだが）と出会うことになった。それはまるでキツツキが木を叩くような音である。最初は本当にキツツキがいるものと思い、初めて聞くキツツキの音に胸をときめかせたのだが、その音があまりにも頻繁なので、「何か変だ」と感じていた。数匹のキツツキでは、とても説明がつかないからである。帰り際に、偶然、おばちゃん達がこの音について何やら話しているのが聞こえてきた。私は思わず「この音は、キツツキですか？」と質問してしまった。おばちゃんの説明によれば、音は葡萄を食べに来るカラスを追い払うために、人工的に作られているものらしい。がっかりすると同時に、こんなにまぎらわしい音をよく作ったものだと感心した。このような自然音で、図太いカラスが追い払えるのかと心配してみたものの、実際、葡萄がちゃんと収穫されているのだから、取り越し苦労に違いない。他の効果的な騒音に比べ、この高原の雰囲気を乱さないのがなによりである、と気を取り直すことにした。

8．大鳴渓谷（おおなるけいこく）

新都市周辺は、景色の良いところが多い。その中でも「すごいところ」を最近発見した。大鳴渓谷、別名、富満渓谷（とどまけいこく）と呼ばれている場所で、SPring-8 施設のすぐ側である。SPring-8 建設当初はこの渓谷に通じる道が在り（現在は、工事の関係でなくなった）、昔からいる人達の間では、結構有名なスポットであったようだ。三原から金出地に抜ける県道を入って行くと、最初は何処にでもあるのどかな山間の農村が広がっている。田圃の脇をきれいな小川が流れているが、この川がしばらくすると渓谷を流れる鞍居川（くらいがわ）となる。さらに奥へと歩いていくと、両側から山が迫ってきて、勾配が徐々にきつくなり、小川は渓流へとその姿を変えていく。川辺にはもみじ等の木々が生い茂り、新緑や紅葉の時期はとてもきれいであろう。

私が「すごいところ」とあえて表現した理由は、この渓谷が自然の姿を良くとどめているからだ。渓谷に沿って県道が走ってはいるが、あまりに狭く曲がりくねっているため、車の通行はほとんどない。当然、バスや鉄道もなく、人間が気軽に近づけないので、荒らされた形跡が見あたらない。渓流の水辺には水性植物が繁茂し、淀みには多数の「じゃこ」が泳ぎ回っている。魚がすぐ目の前で見えるので、自分の家の水槽を見ている錯覚に陥るほどだ。また、7月の初めには、乱舞する無数の蛍を鑑賞することもできるそうである。ここを発見した時の感動は、東京で等々力渓谷（都会の中に、突然、武蔵野の自然が出現する）を目の当たりにした時のものに似ている。即ち、「身近にこんな自然があったのか！」という素朴な驚きだ。

この大鳴渓谷が、なくなってしまうと知ったのは、発見してからわずか一週間後のことである。オプトハイツの人達にこの渓谷の話をしたところ、貯水池建設のため、数年後には水没してしまうと聞かされた。寝耳に水とはこの様なことを言うのであろう。それから暫くして昼休みに、軌道解析グループの人達とこの渓谷を訪れた。グループの人達は、播磨の自然が大変気に入っている。きっとこの場所も好きに違いないと思い、お弁当を持ってのミニハイキングを企画したのであった。河原で食べるお弁当は、プレハブの会議室で食べるものに比べ、なんと美味しいことか。僅かな時間ではあったが、時を忘れ、各人が思い思いに渓谷の自然に触れ、戯れることができた。帰りしな、話題はこの渓谷の下流にできるダムに集中した。実際、どの程度水没するのか、工事関係者にダムの建設計画を聞いてみようということになり、工事を請け負っている建設会社の現場事務所を訪ねた。事務所の人の説明によると、上流の農家（渓谷の入口）から1Km 程は、水没を免れるようである。渓谷が多少なりとも残ると聞いてホッとした。

晩秋の大鳴渓谷

私達は、SPring-8 の建設が、この土地の自然に及ぼした負の影響を忘れてはいけないし、また、それを最小限にする努力を惜しんではならない。失われる渓谷を考えるとき、SPring-8 で行われる研究が、人類にとって十分意義深いものであるべきだという十字架を背負ったことに気づくはずである。世界に冠たる COE にしていかなくてはいけないのであろう。少なくとも、私達にはその責任の一端がある。

9．デザインベスト5

客観的に見て、新都市は非常に良く設計された空間だと思う。しかし、どんなに良くできた物にも、多少の欠点はあるものだ。世の中には、形、色、素材等、本来の機能と無関係なおもしろさやエレガントさを追求するあまり、一見、良くできているかのように見え、使ってみると案外使いづらい物も多い。新都市の中のものを対象に、使い勝手の観点から疑問の残るデザインベスト5（？）を独断と偏見で作ってみた。公園都市関係者の方々には、「一住民の勝手な戯言」と聞き流して頂ければ幸いである。とはいえ、以下を読めば、せいぜいあらを探してもこの程度かと安心されることであろう。

（第1位）横断歩道脇の植え込み：

新都市を南北に横断している幹線道路には、歩道と道路の間に植え込みが設けられている。この植え込みが横断歩道の直前、直後まであるので、車からは小さな子どもが横断歩道で待っている姿が確認し難い。横断歩道の前後の一定区間、植え込みがない方が、美観は悪いが安全性の面では優れている。交差点付近の植え込みも同様の理由でない方が良いと思う。

（第2位）オプトハイツ脇に建設中の高層住宅：

姫工大の校舎とオプトハイツは、濃いめの茶色を基調にしている。この色合いは山の緑にマッチしており、違和感が少ない（私は好きである）。これに対し、高層住宅の明るいベージュ（白に近い）は、周りの色彩から完全に浮き上がっているように見える。また、高さもフラットな土地に建てるには、高すぎて周りの景色にそぐわない。姫工大の場合は、山の起伏をうまく生かし、建物の高さが感じられないようにうまくデザインされていたと思う。

（第3位）公衆電話のないバス停：

新都市にやってきて、SPring-8 等、少しバス停から離れたところを訪ねる人達にとって、バス停に公衆電話がないのは不便である。ピックアップを頼みたくても連絡ができない。少なくとも新都市の終着バス停には、公衆電話があっても良いのではないか。

（第4位）下向き街路灯：

新都市（特に SPring-8 施設内）の街路灯は、佐用町にある天文台の観測の妨げにならないよう、下向きで上と側面が完全にシールドされており、光が上空に反射しないように工夫されている。このため、普通のものと比べると照らされる範囲が狭く、車を運転していてまわりが見にくい印象がある。姫工大、並びに高層住宅が夜でも大々的に明かりがともっている状況で、このような街路灯を採用する効果がどの程度在るのか疑問である。

（第5位）オプトハイツのソーラーシステム：

住人以外はどうでもよい話であるが、一言いっておきたいのがソーラーシステムだ。オプトハイツはモダンで快適な住居であるが、ソーラーシステムには難がある。ソーラーを使って温めた水を使っていると、浴槽や洗面所のタブが薄緑色を帯びてくる。これは、温水配管が銅で作られている（熱特性を考慮している）ことが原因のようだ。ソーラーシステムを使うこと自体は良いことだが、水質に問題がある上、設備費を利用者負担にされては不人気になるのも当然だろう。今後の改善を期待したい。

（番外）焼鳥屋のないこと：

遅くまで研究をした後で、ちょこっと寄れる、新都市の雰囲気にマッチした焼鳥屋が在ったらどんなに素晴らしいことか・・・

（続く）

SPring-8 施設内の下向き街路灯